



ミカフツツジ

1、2024 年度葦毛湿原の動物調査

2024 年 4 月から 2025 年 3 月末までの一年間、二の沢で赤外線センサーカメラによる動物の定点撮影を行いました。二の沢での撮影は 2016 年から開始し、10 年間継続して撮影しています。二の沢以前に設置していた四の沢での撮影を含めると、赤外線センサーカメラによる撮影は開始から丸 12 年が経過しました。動画の画質が落ち、撮影されなくなった期間もあり様々な不具合が見られます。長い間頑張ってくれましたが、そろそろ限界かもしれません。

葦毛湿原では、赤外線センサーカメラで動物の調査を継続して行っていますが、同時に写っている昆虫についても今後はわかる限り報告したいと思います。

1) 調査方法

2023 年度は、二の沢の T 地点で撮影を継続しました。撮影は、昼間はカラー、夜間はモノクロです。これは、夜間撮影時にカラー撮影するためにはフラッシュが必要になるので、動物を驚かさないうように継続して調査をするためです。

動物の撮影は葦毛湿原の植生への影響、アライグマ等の外来種の確認のために継続して行っています。

表 1 種別撮影回数一覧表

番号	種 名	総数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1	ニホンイノシシ	13		1		1	3	2	4				2	
2	ニホンノウサギ	15	3	6		1	4							1
3	ホンドタヌキ	1										1		
4	ホンドキツネ	0												
5	ハクビシン	3		2		1								
6	ニホンイタチ	0												
7	ホンドテン	4			2	1						1		
8	ニホンリス	0												
9	ニホンアナグマ	0												
10	ヤマシギ	0												
11	コジュケイ	0												
12	ノネコ	0												
13	ニホンカモシカ	17	11	4		1							1	
14	ハシボソガラス	0												
15	ニホンジカ	3			3									
16	不明	0												
	合 計	56	14	13	5	5	7	2	4	0	0	2	3	1

2024 年度は昨年の 21 回と比べ撮影回数が増えました。二の沢は高さ 2～3 m 程度の低木が進出して全体を覆い見通しが悪くなり、藪になっています。多く撮影された動物は、ニホンイノシシ、ニホンノウサギ、ニホンカモシカの 3 種で、この 3 種で全体の 80% になります。動物はほとんどが夜間に撮影されています。特にニホンカモシカは多く見られ、昼間も撮影されており、葦毛湿原内では来訪者に年数回目撃されています。2024 年 6 月 17 日に一の沢で昼間撮影したものは、葦毛通信 168 号で紹介しました。

2) 調査結果

2024 年度は延べ 56 回撮影されました。内訳は表 1、図 1・2 の通りです。前年度の 2023 年度（葦毛通信 No. 154）は 21 回でしたので撮影回数は約 2.5 倍になりました。

2024 年度の月別撮影回数は 4・5 月が 14・13 回でピークになり、11・12 月は撮影されませんでした。今年度は春が最も多く、夏場よりも冬場に撮影回数が減っています。

撮影された動物は 7 種類のみで、最も多いのは、ニホンカモシカで 17 回（30%）撮影されました。昨年は 9 回（42%）で、回数は大幅に増えてましたが、割合は若干減少しました。ニホンイノシシは 13 回（23%）で昨年の 4 回（19%）より撮影回数は大幅に増えてましたが、割合はほぼ同じです。ニホンノウサギは 15 回（27%）で昨年は撮影数がゼロでしたので、大きく増えたことが分かります。この 3 種類で全体の約 80% になりました。

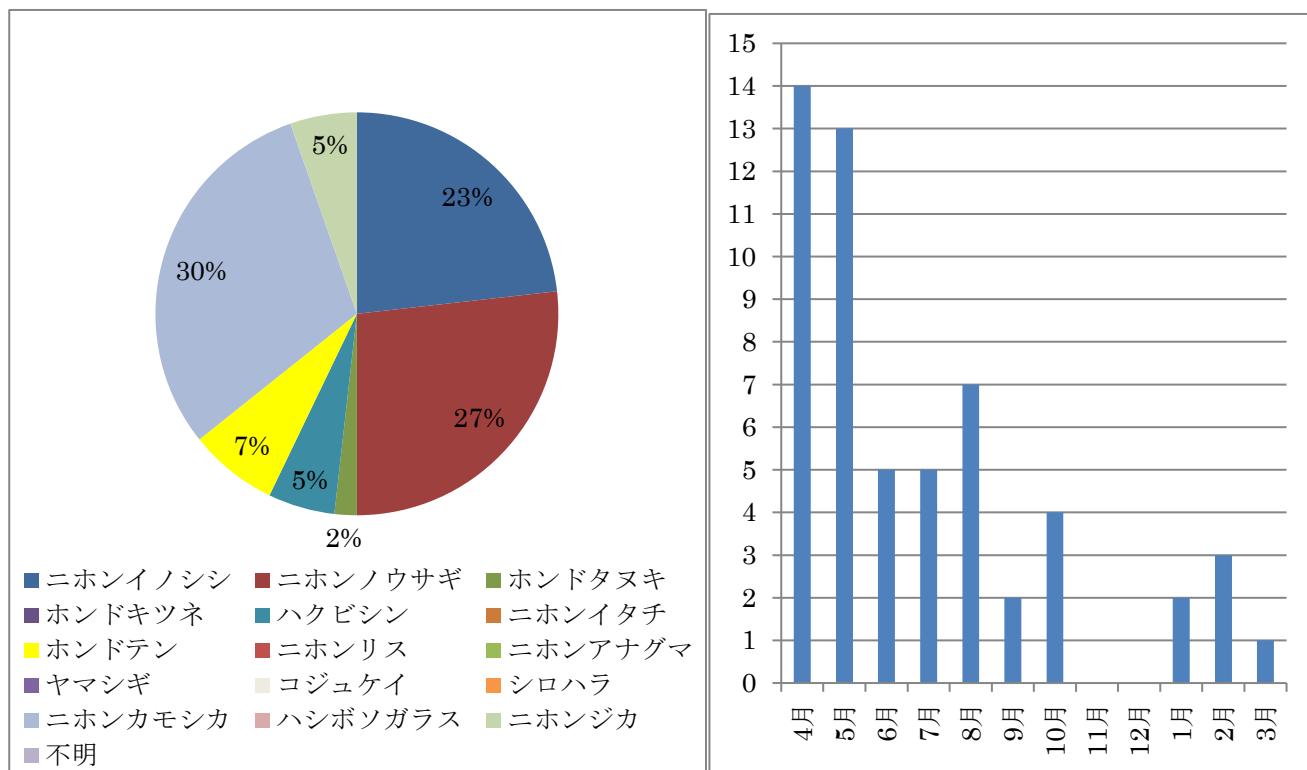


図 1 種別撮影回数割合

図 2 月別撮影回数

これ以外は、ホンダテン 4 回（7%）、ハクビシン 3 回（5%）、ニホンジカ 3 回（5%）、ホンダタヌキ 1 回（2%）となっています。

撮影回数は昨年よりも大幅に増えて約 2.5 倍になりました。ニホンカモシカとニホンイノシシが多いという傾向は昨年とほぼ同じような状況ですが、今年はニホンノウサギが大幅に増えました。ニホンノウサギは 2021 年度が 21 回、2022 年度が 1 回、2023 年度が 0 回で、2022 年度に大きく変化して、2024 年度は 15 回で 2021 年度の状態に戻った状況です。二の沢の植生は低木が増えた藪になって安定しており、大きく変化してはいません。なぜニホンノウサギが 2024 年度に増えたのかはよくわかりません。

ニホンカモシカは 2021 年度が 8 回、2022 年度が 32 回、2023 年度が 9 回で 2022 年度に大きく撮影割合が増えましたが、2024 年度は 17 回で、隔年で増減しています。2024 年度の撮影回数は大きく増えてましたが、ニホンカモシカとニホンイノシシを中心とした撮影割合は同じ傾向です。動物の撮影回数は大きく変化していますが、相関関係は無いようで、変化の原因はよくわかりません。

その他はホンダテン、ハクビシン、ニホンジカ、ホンダタヌキです。特にニホンジカは一の沢では多く撮影されていますが、二の沢でも撮影されるようになり、生息数が増えている可能性があります。以下の写真は 2024 年度に撮影された 7 種類の動物です。



ニホンイノシシ (2024 年 7 月 29 日)



ニホンイノシシ (2024 年 9 月 24 日)



ニホンカモシカ (2024 年 4 月 29 日)



ニホンカモシカ (2024 年 5 月 3 日)



ニホンジカ (2024 年 6 月 3 日)



ニホンジカ (2024 年 6 月 3 日)



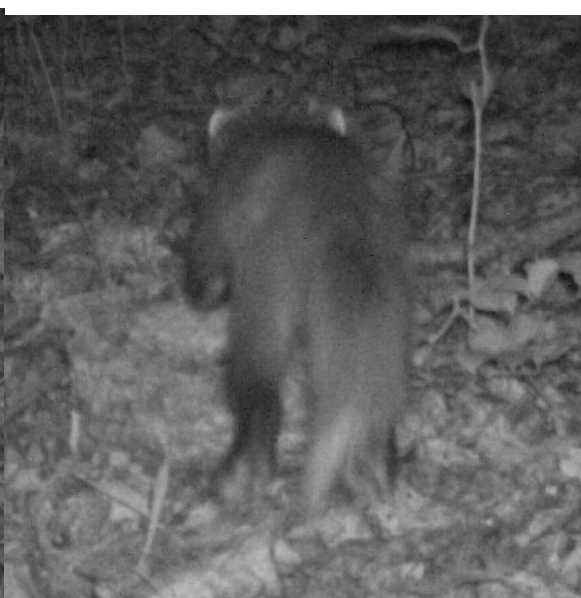
ハクビシン (2024 年 5 月 16 日)



ホンドタヌキ (2025 年 1 月 12 日)



ホンドテン (2024 年 7 月 3 日)



ホンドテン (2024 年 6 月 3 日)



ニホンノウサギ (2024 年 5 月 18 日)



ニホンノウサギ (2024 年 5 月 26 日)